

市教「メリットもデメリットもある」(市教委回答)というのなら 幅広く情報を集め、内容を検討すべき

なぜいつも

西川教授なのか

2月15日(土)に続き、「和泉市小中一貫教育フォーラム」が8月19日(火)に、弥生の風ホールで開催されます。前回が市民向けを意識して土曜日開催であったのに対し、今回は夏季休業中の平日開催であり、教職員に大量動員をかける意図が明白です。

内容は、午前中が市内小中学校からの「外国語活動・英語教育」についての実践報告、午後は同様に「道徳」「食育」の実践報告に続き、京都産業大学の西川信廣教授の講演が予定されています。西川教授は2月のフォー

ラムでも講演とパネルディスカッション(以下PD)の2回登場し、当日会場付近で市民団体「和泉市の子どもと教育を守る会」が配布したビラを壇上から批判した人物です。

「小中一貫教育にはメリットもデメリットもある。日本各地の先行例を検証して、和泉市の小中一貫教育をすすめていく」という趣旨は、交渉の場でも、度々市教委側から回答されたことです。私たちは、小中一貫教育に疑問を呈する研究者も講師に加えるべきだと主張してきました。

市民学習会後援申請を不承認

市教委の呼び気が無いならというわけではありませんが、「和泉市の子どもと教育を守る会」は7月26日(土)10時から和泉シティプラザで開催する市民学習会「小中一貫教育についてなかに？」に和泉大

学教授の山本由美さんを講師に招きます。

山本さんは、2月の市教委主催フォーラムで、西川教授が講演とPDのまとめで2回に渡り実名をあげ、批判した人物です。西川教授が主張する方法が本当に正しいのか、検証するためにこれほど適任者はいません。会では市民学習会の後援を

和泉市教育委員会に申請しました。

ところが和泉市教育

委員会は、これを不承認としました(左参照)。理由は「『教育委員会」の教育行政の一般方針に寄与する事業であること』の要件を満たさないため」というもの。「小中一貫教育」は和泉市の教育行政をめぐ

る大事案であるのに、これについて市民が多面的に学習しようとすることが市の教育行政に寄与しないと判断されたことは残念なことです。ですが、教育委員会関係者も市民学習会に多数参加されることを私たちは呼びかけます。

はつが野新設校の設計は重要段階

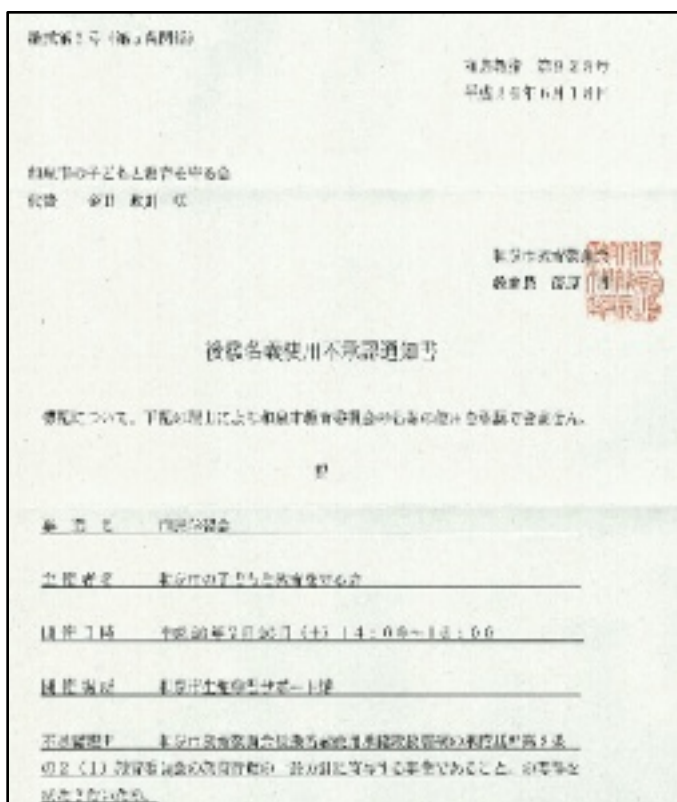
一方、はつが野に新設される施設一体型小中一貫校の設計では、各教科部会に原案が示され、意見集約が行われている段階です。現在入手した情報は、以下の通り。

□ 青葉はつが野小型のオープン教室は採用しない。

□ 大プールは7コースを深4コース、浅3コースにし、床可動にはしない。

□ 体育館は一つで、引くラインは検討中。

□ 原案では、音楽室と技術室が同じフロアにあったが、問題を指摘されたので検討中。



組合に加入して、「教育基本条例」「評価・育成システム」をなくそう！